

# なほ

4月号  
vol. 122

巻頭特集

西成あり  
ゆき 大阪あり

「洗濯日和」  
長橋3丁目付近にて撮影



### <著者プロフィール> エリオット・コンティ (Elliot Conti)

1990年アメリカ合衆国の中西部オハイオ州生まれ。同州のデニソン大学で東アジア研究を専攻。2011年冬に南山大学の留学生として初めて来日するも、東日本大震災(3.11)のためにわずか2ヵ月で帰国。留学経験で湧いた日本に対する強い関心をきっかけに2012年に再来日(名古屋)。2014年に来阪し大阪市立大学大学院文学研究科に入学。専門領域は都市社会学と移民研究。2年余にわたる西成区北西部での調査研究を修士論文「都市貧困を生きるニューカマー移民：スティグマ化されたインナーシティ地域のエスノグラフィーから」にまとめた。今年3月に社会学で修士課程を修了。4月にはナガサキ工業(名古屋市緑区)に入社し、在留外国人の就職を促進する新規プロジェクトを担当。個人ブログ「永遠の学生」：[www.eiennogakusei.wordpress.com](http://www.eiennogakusei.wordpress.com)

はじめに  
2012年の来日から約1年半後に名古屋に居住。2014年初頭に堺市に転居し、関西を初めて知る。同年の末に大学院のフィールドワークを機に西成区鶴見橋に居を移し、ついこの3月末まで居住。  
この4月から名古屋の会社に就職するために日本で4回目の引っ越しを済ませたばかりである。今になって3月の支度を振り返ると、これまでのなかで今回が最も大変だったし、いくら手続きを進めてみても心の準備と頭の切り替えがうまくできなかった。それは府境を越えた引っ越しであったからではなく、年度末の多忙な時期に実施しなければならなかったためでもない。むしろ、この悔いの原因は関西を離れることにあり、これまでの2年余りの間に、大阪は西成区での生活が意外なほど充実したのになってしまったからである。ここで、この地域との別れを



はじめての西成にて (2014年10月)

記念すべく、感謝を込めて感想と体験を綴りながら、アメリカ人にとっての西成の魅力述べたい。  
大阪の魅力は西成のおかげ  
僕は以前大阪市の魅力について記事を書いたことがある。そこで、大阪市がなぜ居住地として日本のなかでトップに立つのかに焦点を当て、5つの理由①物価の低さ、②ミニマム大阪の趣き、③大阪人の面白み、④立地条件と⑤多様性を挙げた。理由付け自体はいまも適切

巻頭特集

# 西成あり ゆえに 大阪あり

アメリカ人が居住経験から西成の魅力を語る

## 1 第二の故郷になった西成

縁にまつわることわざは数多くあるが、エリオット・コンティさんとわたしたちの関係は「旅は道連れ世は情け」といったところだろうか。旅をするように彼が西成にたどり着いたのは今から約2年前のこと。とても陽気で気さくな彼とは旧知の友のように言葉を交わし合った。今年4月で西成を離れる彼に、2年間の生活のなかで感じたことを綴ってもらうことにした。



だと思っっているのだが、しばらく経ってこの文章に目を通した折に、執筆時点で特に注意を払っていなかったことに初めて気づいた。それは、大阪市全体の趣きとした点は、すべて西成にも当てはまる、あるいは西成に起因する事柄であるという興味深い発見だった。そうした目的を全く持っていなかったにも関わらず、対象を「大阪」から「西成」に置き換えても不思議なほど筋が通り、論述も同じく妥当であると思われる。

大概安くつくのは西成。物価が案外高い名古屋から移り住んだばかりの時に、西成の安売り文化に息を呑むほど驚いた。値段の交渉が効く商店街とスーパー玉出が新居に隣接し、ビックリという第一印象から毎日通うようになった。また数多くのリサイクルショップと中古品の売店が界隈に散在し、初期費用を和らげたばかりか、日々の節約にも大きく貢献した。奨学金で生活をしなければならなかった当時の僕にとってはありがたい存在であった。



大変お世話になった方々と乾杯

人情と温もりを溢れんばかりに持っている。実像は外側からは分りにくいが入ってみると(あるいは僕のように、2年以上居住すると)西成の人々のふんだんな思いやりと面倒見の良さ、他人へ手を差し伸べる姿に感動するところが多々ある。計り知れないほどの地域にお世話になった僕は、永遠にお返しに努めなければならぬだろう。

全域へのアクセスの良さに触れたが、西成の場合、天王寺や難波といった繁華街に囲まれており、都心部に隣接しながらも住宅街の穏な性質を保っている。電車やバスなどの交通網の点でのメリットはもちろんだが、常にどこへでも自転車で飛び回る僕にとっても拠点西成から市内各地に無理なく行くことができた。自動車なしに生活が成り立たないアメリカの地方で生まれ育った僕の立場から言うと、軽々と移動できる地域性を大変新鮮に感じた。

最後に、⑤僕にとって最も肝心な理由である多様性。西成の多様性と言うと、それは様々な国や地域から集まってきた老若男女の住民にあり、西成区内のそれぞれ異なるコミュニティにも見える。大阪市統計局による昨年9月のデータでは、西成区の外国籍住民人口は7611人(総人口の7%)であり、市内の24区のなかで4番目に多い。僕が行った調査研究の結果では、戦前から成立し今も存続



近所の行きつけのキムチ屋さん

している在日コリアンのコミュニティとともに、過去5年の間に世界各地から新来移民が急速にこの地域に転入していることが明らかになった。流入者は大概上述の魅力に賛成し、居住地としての西成を褒め称える傾向がある。

西成の多様性と近年増えている外国籍住民による変化はまちの風景にも現れる。僕が住んでいた家から徒歩20秒にあった鶴見橋商店街のなかを覗いてみるだけで、韓

心に染みている僕は、多様性が促進するイノベーション、活性化や経済的社会的効果を大いに期待しており、西成区・大阪市・日本社会が停滞を打破する原動力になるに違いないと確信している。

「住めば故郷」になるまち

誠に勝手な論述に見えるかもしれないが、このように大阪市に対して感じた魅力のなかで西成が果たした重要な役割を見出した。アメリカ人の観点からすれば、ハイレムがニューヨーク市にとって必要不可欠な要素であるように、大阪の趣きは西成なしに到底語れない。というのも、もし西成に住んでいなければ、つまり大阪市内の他地域で3年間を過ごしたならば、同様な愛着が湧いたのだろうかとか疑われないわけにいかない。

個人的な感想を語るばかりだが、在留外国人である僕は日本社会において排他的な暴言を浴びせられ心細い思いを強いられた経験がある。しかし、人権の理念と助け合



ゆ〜とあいて(2017年2月)

いの精神が培われてきた西成では、住民から何らかの不利益を被ったことがなく、むしろ快く歓迎された印象が残っていない。ただ単に僕が人間関係に恵まれただけだとわらう読者もいるだろうが、そういった人々に出会う機会を与えてくれたのが西成への居住に他ならない。要するに、異郷で生活を築かざるを得なかった僕は、戸惑わずに快適に暮らせたのは、門戸を開けてくれた西成のおかげであるに相違ない。よそに移り住んでしまい、改めて新生活の構築に臨んでいる現在こそ、僕は西成に温かい感謝を寄せ、絶えず親近感を抱き続けている。

# きんこん がこん

ver.1.1

教育に取り組んでいるのは学校だけじゃない!小中高のほかにも地域の教育事業で活躍する団体・施設・仕組みを紹介していきます。

22時間目: 映画 かば



かば先生(右)と同僚が悩みを話し合うシーン

映画『かば』が撮影に動き出したで!

撮影の実現に向けてようやく始動!

ちよつと前から西成界限では、鶴見橋中学校の先生をモデルにした映画『かば』の制作が話題になっていました。ようやく撮影が開始されたようなので、制作に至るまでの経緯と関係者のいろんな話を聞いてきました。

西成の鶴中には  
アツい人間ドラマがあった

この発端は1980年代に鶴見橋中学校で教鞭を執っていた「かば先生」(本名 蒲益男)が亡くなったことでした(享年58歳)。



撮影現場にて

かば先生の学生時代の後輩たちが、葬儀で号泣する多くの教  
え子の姿に心を  
打たれ、「かば先  
生のことを映画  
にできないか」と  
知り合いの映画  
関係者に話を持  
ちかけたのでし  
た。

この映画の制作をきっかけに、同僚の先生も教え子たちに再開する機会がありました。卒業して何十年も経っているにもかかわらず、懐かしさのあまり思わず涙する教え子の姿に、彼らもまたこの教え子たちと深くつながっていることを実感していました。

映画の完成・公開に向けてご支援を!

鶴見橋中学校の卒業生で「浪花の唄う巨人・バギヤン」こと趙博さんも一役買って出て、生徒の父親役をされています。またナレーションはアニメ『じゃりン子チエ』のチエちゃん役の中山千夏さんが担当しています。制作委員会代表の福岡教育大学の林崎和彦さんは「今後各地で、これらの材料を使って映画の紹介をしながら、映画『かば』への関心と制作資金を集めていきたい」と語っていました。読者の皆様もこの映画に関心を持たれましたら是非ご厚志をお寄せ下さい。

お問い合わせ: [f cavanishinari](https://www.facebook.com/cavanishinari)

レポート: 寺嶋公典  
沖田一志



緊張感のある撮影現場

その映画関係者とは、話題の映画『傘の下』の川本貴弘監督(京都出身)でした。川本監督はこの話に大変興味を持ちましたが、京都で育った監督自身は大阪や西成のことをあまり知りませんでした。そこで、当時の鶴見橋中学校を知る先生や卒業生に会って話を聞き、エピソードを集めました。何度も会議室や居酒屋で先生方との会合を重ねていくうちに、監督の中に思いが強まっていったのです。

監督は語ります。「取材を進めるほど明らかになる、驚きと涙のエピソードに溢れた当時の学校生活。真正面からぶつかり合った者同士だから築くことのできた『人としての対等』である人間関係は、30年後も変わることもなく続いていくのだと知りました。このアツい人間ドラマを広く大勢に伝えていきたいという思いから映画『かば』の制作を始めました」。

映画制作が先生と生徒の再開を演出

この映画の制作に協力しているかば先生のかつての同僚たちも、この映画に大きな期待を寄せています。その頃、先生たちは世の中への不満を全身でぶつけてくる子どもたちを正面から受け止め、彼らに何とか将来の展望を切り開かせてやりたい、と日々走り回っていました。



パイロット版チラシ

[沖田一志] パソコンやネットが遅く感じる日はないですか? 毎月第二水曜日にウィンドウズの更新が公開されるんです。この日はパソコンやネットが全体的に遅くなる傾向があります。知ってた?



[飯島照喜] 寒暖が繰り返されているが、時折吹く風は春の匂いを孕んでいる。私にとって心機一転、何かが変わる期待風と思う今日この頃です。





(左) 農業体験 (右上) 封入体験 (右下) 配達体験

守口市の相談窓口では、「所持金が一銭もない」「2日間」飯を食べていない」「今までに働いたことがない」「20年以上引きこもり状態」など、しごとだけでなく、目前の生活に困っている方や長期のかわりが必要なものも来られます。「制度の狭間」を埋める生活困窮者自立支援事業ではありませんが、その枠組みみだけでは、対応できないケースが存在するのが現実の事情です。

とはいえ「なければつくっていいこう」の気持ちで、食べることに困った人には「ふーどば

### 地域とともに「コッソツと」

病などが疑われる方があれば「就職」への一方通行だけではなく、必要な福祉制度にないだり、オーダーメイドの支援にこだわっています。

また、目標は人それぞれでも支援終了時には、自身の周りに支援者や利用者同士の輪ができる形をこころがけ、SOSが出しやすい環境をつくり、将来的な孤立予防にもつなげています。

また、「公の窓口は敷居が高くて…」という方も多くおられます。これからは、地元の支援機関と連携しながら相談を受ける「じっくり相談会」や「求職活動フェア」などの助成金を活用した独自事業も拡充させ、相談からマッチングまで伴走型の支援を展開していきます。

文責：西田 茂生

一般社団法人ヒューマンワークアソシエーション (Bサポート)  
〒557-0025 大阪市港区波除 4-1-37 HRCビル8階  
TEL : 06-6581-8781 FAX : 06-6581-8761  
URL : <http://yarukimitekure.com/>



守口こども食堂

『なび』をつくる(株)ナイスは、地域での取り組みも、社会に向けた取り組みもいろいろ。多様につながる実践を紹介していきます。

## ヒューマンワークアソシエーション VOL.36 Bサポート

ヒューマンワーク  
アソシエーション  
サポート  
Human work association B support



大阪市の地域就労支援事業に携わってきたメンバーが立ち上げたBサポート。2市から生活困窮者自立支援事業を受託するだけでなく、WAMの助成金も活用するなど支援の輪を広げています。Bサポートの知恵袋の西田さんに今後の展開などについて紹介いただきました。



事例報告セミナー

### Bridge (つなぐ) を Support (サポート) する

Bサポートは一般社団法人ヒューマンワークアソシエーションの愛称です。働きたいけど働けない・働き方が分からない方々への就労支援が主な業務です。公的支援のみならず、支援機関・市民・企業をつなぎながら (Bridge) それぞれが希望する就労の実現を

目指しています。

「就労支援」と聞くと障がい者分野での福祉的な就労を思い浮かべる方が多いと思います。2012年6月に法人を設立した当時は、リーマンショック後の派遣切りや中高年無業者、若年無業者などが取り上げられる機会も増え、「しごと」があれば解決するというこれまでの「就職支援」だけでは、につきもさつちもいかなない状況が少しずつ世間で認知され始めていました。その時にできたのが、「制度の狭間」にある方々を「伴走型・よりよい型」で応援する「生活困窮者自立支援事業」です。

### オーダーメイドの就労支援を

Bサポートでは、大阪市(旭区窓口、就労準備)と守口市(相談窓口、就労準備)の生活困窮者自立支援事業を受託しています。大阪市の就労準備(就労ファーストステップ事業)では、24区の区民を対象に弁天町で事業を実施しています。生活困窮者経済的困窮という方があれば工賃つきの軽作業を用意したり、疾



[谷口円] デザイナーの思う良いデザインが、本当に良いデザインなのか。そんな事を考える出来事があった。本当に「良い」デザインに必要なものって何なんだろうね。



[田岡秀朋] 老若男女問わず、人が集まる花屋Bonの雑波店長はまるで「西成の母」のようでした。9年間ありがとうございました。ちょっと寂しいけど、花屋は「おなおい工房」でリスタートです。



これまでの花たち：いろいろ  
 花言葉：「うれしいことも」  
 「悲しいことも」  
 2014年4月号に登場して  
 から、ある日のポンを飾った  
 いろんな花たちです。



3年間ご愛読ありがとうございました。  
 花屋ポンは、3月いっぱい閉店しました。  
 いろいろな方とお友達になれたことに感謝  
 しますが、釜ヶ崎のまちが大きく変わっ  
 ていく雰囲気をリアルタイムに過ごせたこ  
 とが、一生の思い出になりました。また、  
 会える日を楽しみにしています！  
 (なんばひとみ)

あきちとあきや

まちを歩くとぼつぼつと、猫じやらしのはえた歯抜けの場所や、  
 フェンスなんかで囲われた、ちょっと気になる場所。  
 もう誰も住んでないだろうと思う家とかアパートの部屋。  
 以前は、長いこと頑張っていたお店だったり、  
 ビニールシートに囲われた、そういえばあの人がいないしてるんやろか。  
 と考えさせられる建物なんかも、結構見かける。

人が減ってるんだから、しょうがないと言ったらしょうがない。  
 でもなんとなく、  
 危ないな〜とか、さみしいな〜とか、もったいないな〜  
 なんて思ったりする。

こうなれば良いのに、となんとなく思うけど、  
 勝手ににはできないし、どうすれば良いのかよく分からない。  
 誰かがどうにかしてくれるのを待つのも良いけど、  
 少し"自分なら"と何か出来そうなことを考えてみるのも楽しい。  
 それと、このまちにはまちの良さがある。

hidarimaki

# ぼの細道

樹々がみな肋骨となり冬雀  
 冬枯木枝に灯ともす宵の星  
 凍てる目でへイト誅せよ二王像

仁和寺

支援って居心地の悪い言葉である。人を支援するくらいなら、しっかり自身を支援してや  
 りたいと思うね。

金剛寺  
 着ぶくれて黄金の塔が身をやつす  
 かみさびる遺愛に触れん京時雨

豊中・豊洲

春ゆたか百鬼ら耕す腐れ土地

たぐの 3くふうたま

# 6 月 間

なんとも桜の季節ですね。去年はこのまちの"花見"を探しに行きました。意外に公園の多いまちで、沢山の笑顔であふれるこの季節。今年は是非、地元の思い出の公園で！（安田拓也）

# い湯かげん

## 共同浴場の存亡の危機

皆が貧しかった西成の被差別部落で、部落解放運動主導の共同浴場（文化温泉）が落成したのは1955年で、いわば「民設民営」だった。しばらくして同和对策事業が始まって、「公設民営」の共同浴場は三つに増え、地域内の8つの純民間の銭湯にも入浴費助成が付いた。ところが、2002年に同対法が終結すると、入浴費助成は全廃され、共同浴場は無償貸与されたが有期限となり、廃業時には更地にして返還することが義務付けられた。

西成の部落解放運動は、廃業か存続か判断を迫られたがNPOを創り、市から貸与を受け、「くらし組合」で高齢者等利用者の

受け皿を創り、11の銭湯と通常より100円安い「組合料金」を設け、銭湯離れを防いだ。若くて比較的所得の高い人は流出し、高齢者や困難を抱えた人々が滞留、流入、再流入する西成特有の「一方通行現象」を逆手に取った妙案で、「このまちでは60歳になると風呂代が安くなる」と評判にもなった。

それから15年、地域の人々も、また銭湯の建物も齢を重ねた。大阪市の人口は「まだら現象」で増減したが、西成の被差別部落では減少の一途を辿った。結果、三つの共同浴場の内一つは廃業に至り、建物の解体除去費用の工面に奔走している。残りの二つも、

利用者の減少を食い止めて健闘しているが、増えることはない。建物は時と共に修繕費を膨らませ続けており、繰り言のようだが、公の支援があったがために「オーバーストア」気味の建物になっている分、修繕費に跳ね返った。収入は増えないのに、支出は増え続ける悪循環に陥っている。

施設の複合利用や複合施設化で収入増を図るべく市に要望を繰り返したが、門前払いだった。そして、大阪市との貸与年数と建物の耐用年数が足音を立てて近づいてきた。人口減少も加速度的に進み、小学校さえ廃校の危機を迎えるに至った。当然のように、経営側は、先行きの見えない中で修繕費用を控え気味になるし、その分利用者からの苦情も増え、間に挟まった従業員はストレスを溜めてしまっている。

さて、去るも地獄、残るも地獄の状態から、西成の部落解放運動、社会的企業に、くらし組合に続く「二度目の妙案」は閃くのか。

株式会社代表取締役  
 富田一幸

人間のしあわせ、福祉のあり方、そして新しい社会の結びつきを求めて、これからも「いい湯かげん」のテーマ探しに出かけます。

二つを一つにする手もあるが、解体除去費用が要る。大型施設の大規模修繕は、先行きの維持費に苦しむ。「スモール」な建物に建替えるには新築コストがかかる。廃業してしまうと地域の高齢者が悲しむ。総合区になれば、市のアタマも変わるか。「富山方式」の多機能型ワンストップ福祉はヒントにならないか。になり隣保館の付帯施設にすることで、多目的化施設にすることはできないものか、と苦悩は続く。

それにしても、1950年代の地域の先達は、共同浴場建設という勇敢な計画を思い立ち、実行に移したものだ。いまさらだが、時を経て、そう思う。

【若松司】森友学園と豊洲市場、日本の意思決定の不備に関する問題が土壌汚染に端を発しているのは単なる偶然なのか。日本の政治風土を暗示しているのなら、露骨すぎて笑えない。

【西田吉志】新年度のはじまりですね。昨年度は、民設民営隣保館を運営することがなんと難しいことが十分に思い知らされました…。そんな中で得たものもありました。それを活かして今年度も頑張ろう！

地域の縁を心でつなぐ



## 松向寺さんの 心の時間

「心」の時間は、今から18年前の2001（平成13）年4月に地域の特別養護老人ホームで生まれました。当時の施設長から「入居されている方々が笑顔で安心して暮らせるような話をしてほしい。」というご依頼がありました。とても難しい役割だと思いましたが、お断りすること自分からご縁をたつよりも、最大限の力で挑んで、後の評価は、皆様にお任せすると腹に決めて、依頼を受けました。その後、本日まで毎月1回、今年で200回を迎えます。何回お話ししても、1ヵ月の中で1番緊張する時間です。それでも、この時間がなかったら、今の私はございません。現在「スマイル ゆ〜とあい」でも毎月1回行っている、心の時間はそのご縁から生まれた1つです。本当にご縁に恵まれたことを感謝しています。私は「心」の豊かな人こそ、真実の幸せな人と思います。これからも「心」の時間は、お話を聞いてくださる方の「心」が成長し、私も成長できるような時間になりたいと思っています。

松向寺 通法

## COUNT 2.99

隣保館などで事業を行う中で感じたことをつぶやいて、西成のまちづくりに役立てていきます！



なび編集長 寺嶋公典

プロレスは3カウントを取られると負けですが、レスラーがギリギリでカウントを返した時にアナウンサーが絶叫する言葉、それが「カウント2.99」。負けそうになっても、あきらめずに何とか返して逆転したいという思いを、このタイトルに込めました！

さて、今回はそんな思いとは全く関係ない話ですが(笑)、先日、認定NPO法人箕面こどもの森学園に行きました。この学校は無認可の小・中学部で、聞きなれた国語・算数・理科・社会という教科はありません。午前中に「ことば・かず」という基礎学習を行い、午後からはケーキづくりや木材での飛行機づくりなど自分たちのしたいことをします(取り組みはとてもおもしろいので、ぜひHPなどで)。

その他にアイヌやホームレス、部落など人権問題も勉強していました。行政から言われても実行しない学校もあるのに、こどもたちの成長に必要なだということで自発的に取り組まれていることとても驚かされました。



## ゆ〜とあい

にしなり隣保館

にしなり隣保館「スマイル ゆ〜とあい」は、地域コミュニティ全体が抱える課題の解決をめざす民設民営の福祉施設です。日々悩んでおられる困りごとはありませんか？お悩み解決のためにできることをいっしょに探しましょう。

なび 4月号 (vol.122)

発行日:2017年4月1日(創刊日:2007年1月1日)

発行:株式会社ナイス

発行人:代表取締役 冨田一幸

住所:大阪市西成区長橋3-6-33

電話:06-6563-1156

E-mail:info@nice.ne.jp

url:http://www.nice.ne.jp/

編集長:寺嶋公典

編集:飯島照喜、沖田一志、佐々木敬明、田岡秀朋、

西田吉志、安田拓也、若松司(あいうえお順)

イラスト:hidarimaki デザイン:谷口円